

プログラミング教育
先駆者が意義を強調
福井で「サミット」

「第2回こどもプログラミングサミット2017 in Fukui」(福井新聞社後援)が26日、福井市のハピリンで開かれた。2020年度の小学校でのプログラミング教育必修化を見据え、プログラミング教育の重要性や国内外の現状に理解を深めた。

プログラミング教育を推進する県内のIT関連企業でつくる実行委員会が主催。県内外の教育関係者ら約30人が参加した。

パネル討論では、プログラミングの授業を導入している東京都小金井市前原小の松田孝校長や、リクルート次世代教育研究院の小宮山利恵子院長らのほか、ITのまちづくりを進める鯖江市の牧野百男市長



プログラミング教育の在り方などについて理解を深めたサミットは26日、福井市のハピリン

がパネリストとして参加した。松田校長は、プログラミング教育の意義を強調。学校教育への導入に反発があることに「子どもたちの未来を考えると、今まで通りの教育が正しいのか見直しが必要」と訴えた。牧野市長は、ITを活用した地域活性化の事例を挙げ「サテライトオフィスの導入は、若者のU・イターンを増やすことにもつながる」と話した。(藤田有美)